

利賀っ子だより



R 3 . 6 . 3

自然から学ぶ子供たち

全校児童が5つのグループに分かれて、1株ずつ育ててきた利賀の特産品「白爵カボチャ」のうち、1つのグループの株が茎のところから折れてしまいました。原因は分かりません。それ以来、このグループのメンバーだけでなく、他の子供たちにも「この後、どのように栽培活動を進めていくか。」について投げかけていました。時期が過ぎているので地元では代替えの苗を手に入れることは難しいことも伝えました。



1週間ほど経った昨日、再度、子供たちに問いかけました。

「まだ残っている根っこからまた生えてこないかなと思って、水やりを続けている。」「給食で出たサクランボの種を近くに植えておいた。」「もし、苗があったとしても、また、同じことにならないか心配だから、他のグループに入れてほしい。」というグループのメンバー。「自分のグループと一緒に育てよう。」と声をかける子供もいれば、「途中から（別のグループに）入るとなんとなく遠慮してしまうかもしれない・・・。それは、かわいそうかもしれない。」と、どうすることが相手にとって一番うれしいのか考え、決めかねている子供もいました。それぞれがどうしたらよいのかを思案してきたことは伝わってきました。

職員があちこち連絡し、苗を手に入れることができました。

グループの子供たちは、茎が折れた株とは、別の場所に植えることにするそうです。「まだ、根っこがあるから、諦めないでいる。」とのことでした。



児童玄関の近くに、新しいツバメの巣ができました。

ここ数日、親鳥と思われるツバメがじっとしていることが多いので、抱卵していると思われます。

子供たちは、「ツバメは、縁起のよい鳥だって聞いたよ。」
「いつ、赤ちゃんが生まれるかな。」「静かにしてあげよう。」
など、家の人に聞いたり、図鑑で調べたりしたことを互いに紹介しながら、毎日見守っています。

どんなにがんばってもコントロールすることができない自然を相手に、子供たちは心と体を働かせて関わり、学んでいます。

(高田 公美)